

2 大学の競争力の強化

(1) 世界の科学技術・基礎研究をリードする大学の形成

国際競争力のある大学づくりのためには、国公立大学を問わず、大学における競争的環境の醸成一層促進することが求められている。文部科学省では、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」（平成17年9月）、科学技術基本計画及び平成14年度から実施している「21世紀COEプログラム」の成果を踏まえ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化するため、平成19年度より、若手研究者の育成機能の強化や拠点の国際性をより重視した「グローバルCOEプログラム」を実施し、国際的な卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援している。平成20年度までに、40大学131拠点を採択した。

また、我が国全体の基礎研究の更なる発展のためには、国公立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制の整備が求められている。文部科学省では、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会報告「学術研究の推進体制に関する審議のまとめ」（平成20年5月27日）を踏まえ、平成20年度に国公立大学を通じたシステムとして、新たに共同利用・共同研究拠点の文部科学大臣による認定制度を設けた。

(2) 個性・特色を活かした大学の活性化

(地域に開かれた大学の育成)

地域における大学は、地域にとって重要な知的・人的資源であり、地域に開かれた存在として地域全体の発展に一層寄与すべきである。

地域再生本部は、平成18年2月に、「地域の知の拠点再生プログラム」を決定し、平成20年3月には、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業、地域イノベーション創出研究開発事業等、新規施策を導入するなどの改正を行い、本プログラムを充実させたところである。これを受けて内閣府では、平成20年12月までに、本プログラムを活用した地域再生計画を80件認定しており、大学等と地域が連携した様々な取組が進展している。

文部科学省では、本プログラムが策定された平成18年度より、新たに科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムを設け、地域の大学等が地元の自治体との連携により科学技術を活用して地域に貢献する優秀な人材を輩出する「地域の知の拠点」を形成する取組を公募し、平成21年3月までに、35課題を採択し支援している。

また、地域活性化統合本部会合は、平成20年12月に地方再生のための総合的な戦略を取りまとめた「地方再生戦略」（平成19年11月）の一部改訂を了承し、地域を活性化させる「人材力の強化」に向けて、「地域と大学等の連携を通じ、地域での『産学官連携』の推進」に取り組む必要があるとしたところである。

3 イノベーションを生み出すシステムの強化

(1) 世界トップレベル研究拠点の形成

近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化してきている中で、我が国の科学技術水準を維持・向上させていくためには、優秀な人材の世界的な流動の「環」の中に位置付けられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にもつくっていく努力が必要となっている。

このような問題意識の下、世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と高い研究水準を